

城南総合研究所 調査報告書 No.27

小泉純一郎元首相が訪米し、「トモダチ作戦」で被ばくした元兵士たちと面会！ 記者会見も行う！

平成 28 年 5 月 15 日（日）から 19 日（木）にかけて、城南総合研究所の名誉所長である小泉純一郎元首相が、アメリカ合衆国カリフォルニア州のサンディエゴを訪問し、「トモダチ作戦」に参加し福島第一原子力発電所事故で被ばくしたとして東京電力等を相手に訴訟を起こしている元兵士たちと面会し、記者会見を行いました。

<トモダチ作戦・レーガン訴訟とは？>

東日本大震災の直後に、原子力空母「ロナルド・レーガン」などの米艦隊が東北沖に派遣され、支援物資の輸送などの救援活動を実施しました。その際に、福島第一原子力発電所の事故が発生して、海側に風が吹いたため、放射能プルーム（雲）が空母を直撃しました。

帰国後、元乗組員たちは次々に健康被害を起こし、平成 24 年 12 月に 8 名の元兵士が、「放射性物質の危険性が正しく伝えられずに救援活動を続けた結果、被ばくすることになった」として東京電力などに損害賠償を求めて、サンディエゴの連邦地裁に提訴しました。

原告弁護士によると、これまでに白血病や骨肉腫などで 7 名が死亡したほか、原告が次々に増えて約 400 名に達しています。

<元兵士たち 10 名と面会>

小泉純一郎元首相は、「トモダチ作戦」と「レーガン訴訟」の話を聞き、「日本人として見て見ぬふりはできない。自分が訪米することで日本国民に実態を知ってもらえれば」との強い思いから、訪米を決意し、3 日間で 10 名の元兵士たちとの面会を行いました。

レーガンの元乗組員たちの話によると、原発事故の情報は伝えられずに、被災地と



甲板をへりで往復しながら毛布などの支援物資を運んだり、海を漂流している人を救助していたそうです。そして、任務を終えて空母に戻ると、放射能測定器の警報が鳴り止まず、初めて事態の深刻さに気付いたとのこと。また、放射能で汚染された海水（脱塩水）を飲食やシャワーに使用していたことも分かりました。

帰国後に、元兵士たちは腫瘍ができたり、鼻血が止まらなくなるなどの健康被害を起こして、除隊を余儀なくされ、また、医療費の負担が重いため満足な治療も受けられない状況のようです。



<記者会見で支援の必要性を訴える>

小泉純一郎元首相は、元兵士たちとの面会終了後に記者会見を行い「日本のために、救援活動に全力を尽くしてくれた米国の兵士たちが重い病に苦しんでいる。見過ごすことはできない」と訴え、支援の必要性を強調しました。

この記者会見には、内外のテレビ局や新聞社などの報道陣が詰めかけ、日本でもテレビニュースや新聞各紙で大きく報じられました。



<帰国後、有楽町で講演会を開催>

小泉純一郎元首相は、帰国後の5月26日(木)に有楽町朝日ホールで講演会を開催し、訪米して「トモダチ作戦」に参加した元兵士たちと面会したことを発表するとともに、日本国民として、福島第一原発事故で被ばくしたとして健康被害を訴える元アメリカ軍兵士たちを支援する必要があることを強調されました。

